

乳歯を再生医療に応用

歯髄細胞バンクと小児歯科学会らが始動

乳歯を難病治療の解明や全身の再生医療に応用しようという試みが進んでいる。18日に東京都千代田区の手町サンケイプラザで開かれた第1回歯髄細胞バンク学術フォーラムで、歯髄細胞バンク学術研究会(斎藤 一郎代表)と日本小児歯科学会(朝田芳信理事長)らが乳歯歯髄幹細胞の有用性や、細胞バンクの重要性を強調した。

歯髄細胞バンクは昨年10月に立ち上げられたもの。HLA(ヒト組織適合抗原)のタイプングにより30万件の細胞が集まれば、国民人口の90%に対して、拒絶反応がなく使える細胞を提供することが可能となることから、10年間で30万件の細胞収集を目標としている。



注目を集めた第1回学術フォーラム

き、他の体性幹細胞より高い分化能を有することなどから、2008年に「乳歯を用いた再生医療技術開発」の推進を理事会で承認。09年には、

脱落した乳歯の歯髄から幹細胞が採取で細胞の濃縮や増幅手法の開発に着手し、今年は幹

細胞の調整法と評価法の統一化を目指した細胞培養技術トレーニングコースを設けている。

克服ホランティアバンクの設立の経緯を説明した。

また、「脱落した歯はあくまでも健全な歯であることが前提となる」と説明し、「将来の再生医療に結びつけるためにも、国民に乳歯歯髄が再生医療の大切な資源になることを知ってもらい、乳歯を大切にしようとする意識がより高まっていくように取り組んでいきたい」と話した。

朝田氏は、抜歯歯や智歯と異なり、自然と生え変わる際の乳歯を使える有用性を強調。「学会では、細胞を培養、評価する技術の統一化を図っているが、乳歯歯髄から採取した細胞を長期的に安全に保管するバンク事業は不可欠」と述べ、今後の学会活動として、再生医療技術開発研究の継続と歯髄細胞バンクとの連携を打ち出した。

最近では、歯髄細胞をiPS細胞化する研究も進められており、歯髄細胞が口だけでなく、全身の再生医療に使えるようになることが期待されている。

乾燥に関する公衆衛生学的研究を報告、韓国政府による貧困層高齢者への義歯配送プログラムが、口臭、口腔乾燥などのQOLにかかわる新たな問題につながっていることを示唆。欠損に対して義歯をただ提供すればよいのではなく、口腔内の衛生状態を維持させるための健康教育プログラムを合わせて行うことの重要性を示した。

「口臭症」と定義されることになり、研究、臨床での混乱が改善されるものと期待される。同学会は、多領域の専門家が参加する学会であるために、耳

臭症の理解図る

日本口臭学会が第1回学術大会

特別講演では、田崎雅和東歯大教授と山本祐三氏(耳鼻咽喉科医師)がそれぞれ、嗅覚の生理、口臭を伴う耳鼻咽喉科疾患について、基礎、臨床の両面から口臭の背景など最新の知見を紹介した。韓国からも5演題がエントリされ、国際色豊かな学会となった。中でもLee, Sang-Soc氏は韓国の義歯提供ブ

燥に関する公衆衛生学的研究を報告、韓国政府による貧困層高齢者への義歯配送プログラムが、口臭、口腔乾燥などのQOLにかかわる新たな問題につながっていることを示唆。欠損に対して義歯をただ提供すればよいのではなく、口腔内の衛生状態を維持させるための健康教育プログラムを合わせて行うことの重要性を示した。

口臭治療のバイオリアとされる同学会常任理事の本田俊一氏(大阪府開業 歯科医師)によれば、

生涯にわたる健康な天然歯の維持を目指し活動しているNPO法人「t.o.h.あなたの健康21」

安田登同会理事長と水谷惟紗久「アポロニア21」編集長の誌面対談企画を公開で行う初めての試み。

今後の歯科医療探る

月刊「アポロニア21」誌面対談企画を公開

海外技工について安田氏は、「今後、避けられない事柄である」とし、一定

妊娠、授乳期の女性に対する歯科治療上の注意点を、2001年に発行した同1版に、妊婦の合併症に関する用語を加え、薬物に関する面的な見直しを行うなど、線の歯科薬理学研究者の知見をまとめて再構成もの。特に妊産婦、授乳婦に対しては、薬物投与の際に注意が必要だが、本書では「適齢期女

歯科界事件簿

●総合病院が金歯で裏金作り、不適切と指摘される(静岡)

静岡県立総合病院の歯科口腔外科が20年間、患者から回収した金歯など撤去物を持って得た約160万円を個人名義の口座にプールしていたことが分かった。県の監査委員が3月に「不適切」と指摘していたという。金は医学書やパソコンソフトなどの購入に使ったという。

歯科口腔外科は、撤去物をリサイク

新刊 妊婦・授乳期の女性に対する 歯科治療と薬物療法 安心で安全な妊娠・育児のために 著者 齋藤 一郎 松本 浩一 松本 浩一